明日へ向かって

第３学年　　学年だより
令和５年　　１１月１日
第４４号

11 月面談は「話し合いのスタート」

11 月面談は大変重要ではありますが、時間が限られていることも事実です。
「11 月面談から 12 月面談まで、家庭で何の話し合いもなかった」というのでは、これはよろしくないことです。面談が全てと思わず、この面談が具体的進路に向けての学校（担任）との話し合いのスタートであると思って、面談後も家庭での話し合いや担任の先生との相談を継続していってください。

面談時は自宅学習　～速やかに下校～

この三者面談が重要な面談になることはすでにお知らせしていますが、面談を行うためには、いろいろな準備が必要になってきます。担任の先生方は、みなさん一人一人がお家の方と考え、現段階で出してきた希望（高校等）の条件を調べ、そのことに準じた対策を練って面談に臨んでいます。特にこれまでの成績と希望が見合っていない場合は、いろいろな場合を想定して準備を進めています。今、先生方は、少しの時間も準備に充てていく必要がある時期なのです。

まずは速やかに下校

１・２年生は授業をやっているわけです。５時間目が終わって１０分間で下校するのは難しいとしても、１・２年生に迷惑がかからないようにできるかぎり速やかに下校し、面談がない人も遊びの時間を提供するための下校ではないのですから、３：３０までは自宅学習をしましょう。みなさんが下校するまでは、先生方も準備作業に入ることが出来ません。自分のため、またお互いのために速やかに下校してください。

その日の２番手、３番手の人は

その日の１番の人はそのまま教室に待機していればすむことですが、２番手、３番手の人の中には、いったん家に帰ってしまうと間に合わない人もいます。そういう人は４階の図書館で待機していてください。ただし、基本的にはいったん下校して、不要なものは家においてくること。

再登校はルールを守る

当たり前のことが守れない人がいるため、こういう注意を書かなければならないのは残念です。再登校の時は制服。自転車登校はありえません。面談後はまっすぐ家に帰り、お家の方と面談の中身について再検討したり、内容を整理しておく、また私立へ行く算段をするなどしておきましょう。面談の日にやるのが一番です。

受験生にふさわしい言動を期待します

１１月面談を前に、すでに担任の先生からアドバイスなどをいただいている人もいると思います。そのことを素直に受け止め、改善を心がけることです。このひと手間で、１１月面談で相談する内容はだいぶ下準備ができると思います。

中には、「１１月面談までには〇〇を改善しましょう。」と具体的なアドバイスをもらった人もいるのでは？　改善できましたか？

「この面談が具体的進路に向けての学校（担任）との話し合いのスタートである」と言いましたが、その前からその下地作りは始まっています。そして２回の面談を経て具体的な学校が決まり、受験手続きを進め、受験し、合格発表があって入学手続きが終わるまで、ずっと話し合いが続くわけです。

三年のこの時期、もう、生活面で手間をかけている時期ではありません。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」大人の行動を取ることがお互いのためです。

日々の生活で心がけること

〇いつも自習課題などを持参しておくようにしましょう。暗記物や練習問題など、いくら時間があっても足りないのが「今」ではないでしょうか。
教科によっては進度も格段に早まり、授業中に練習問題や演習問題などやっている余裕がない場合もあります。自習時間など生まれた場合は「この時こそチャンス！」と思ってこれらに取り組みましょう。

〇誠意ある態度を望みます。服装や態度などで、推薦が厳しいと言われた人もでるかもしれませんが、それは「これらを直して、中学卒業後にしっかりやるという心構えを作ってほしい」という思いがあるからです。
遅刻（各授業へのわずかな遅れなども）や授業中の態度など、しっかりやってほしい。義務教育が終わって、世間的には「自分の責任で行動すること」が期待されるようになるわけです。狭い考えでなく、この少し大きな峠を越える事で、自分という人間を磨くのだ、という意識を持ちましょう。

〇先生の話をよく聞き（聞き逃さず）、提出物をきっちりと出しましょう。受験関連のものは、「明日持ってきて下さい」と言われて、持ってこないとたいへんなことになるものもあります。「期日を守る」「間違ったやりかた（書き方）をしない」ということを、意識を高くもってやってください。

進路関係のことを話し合う面談は 11 月と 12 月に行われますが、12 月の面談の時には、２学期の成績（内申）を出すためのほとんどの資料が出そろっているため、「最終の調整面談」という意味合いが強くなります。

12月の面談が終われば、自分の進路がほんとうにそのように進むように、努力し続けるしかやることはありません。ですからこの11月面談こそが「どういう方向で進路を考えていこうか」と話し合える実質的な機会になります。重要な面談です。特に私立関係（単願・併願とも）は、12月面談が終わってすぐに入試相談になりますので、今回の面談である程度方向性を出す必要があります。

■　面談の前には

（1）親子でよく話し合い、方向性を一致させておきたい。

12 月面談では、11 月面談の時に話した方向で行っていいかを確認するような内容になりますから、11 月の時点で親子の話し合いが足りず、面談の場で親子の食い違いが露見するようでは厳しい。逆に「こういう方向で進めたい」ということがはっきりしていれば、具体的な高校名が浮かんでいなくてもなんとかなるものです。ぜひ親子で話し合いを。

（2）同じくよく話し合い、現実に見合った進路を考えたい。

東京都の多くの中学校では、一学期と二学期の成績を 50%50%で加味して内申の数字とします。年度当初から何度も言っているように、本校もこの方式を取り入れています。とすれば、一学期の成績から内申が大幅に上がる（または下がる）ということはまずありえません。１つか２つ上がれば十分に努力したと言えます。

一学期の内申、過去２回の実力テストなどを参考にして、現実に即した学校選びをすることです。三年間通うのはあなたなのですから。

（3）私立高校には出かける計画を立てておく。

12 月 15 日が私立高等学校の入試相談の解禁日ですから、それまでには一度はその高校に足を運び、できれば親子で個別相談を受けましょう。11 月面談で決まってから「じゃあ、いつ行こうか？」と腰を上げるのではやや遅いです。

取扱注意……進路関係書類

進路関係の書類は絶対に担任に手渡ししてください。また、むやみに表に出さず、カバンから直接出して渡すこと。当然ですが、絶対になくさないでください。

■　面談で渡されます

以下の書類が渡されることがあります。いずれも 12 月面談時に提出してください。あくまで「願」ですので、推薦・併願優遇での受験がこれで決まりというわけではありません。

1　推薦願（該当者。私立は青、公立は緑）

現時点で、受験（検）に際して学校推薦を希望する人には推薦願をお渡しします。

2　併願優遇受験願（該当者。ピンクの用紙）

現時点で、受験に際して併願優遇を希望する人には併願優遇受験願をお渡しします。

3　調査書等記載住所氏名など確認のお願い

進路に関する書類で用いる正式な表記（「邊」と「邉」、「髙」と「高」など）や住所を確認してください。

4　卒業証書・卒業生台帳　表記・記載内容確認書

正式な表記（「邊」と「邉」、「髙」と「高」など）や住所、卒業証書で使用したい表記を確認してください。

5　諸活動の記録　作成準備資料作成のお願い

調査書には内申や出欠席等のほかに中学３年間で頑張ったことを「諸活動の記録」として文章で記載します。そこで書いてほしいことをこの書類で申告してください。

■　面談を終えて……諸準備を進める

①筆記具は黒ボールペン

これから何枚もの書類を書くことになります。基本的な考え方としては、入学願書や受験票といったものは「本人の自筆」が原則です。しっかりと書くことのできる「黒のボールペン」を用意しておきましょう。

②私立願書を入手する人

二学期の成績に関わらず、もう私立高校を受験することが決まっている人は、各自でその高校に出向いたりして願書を入手してください。全ての学校が無料ではありませんので注意しましょう。尚、都立願書は、特例を除いては、インターネットを用いた出願になっています。。